

施策評価シート(令和5年度実施施策)

総合計画 体系	政策No.	1	政策名	自然に配慮した環境づくり	施策主管課	町民税務課
	施策No.	1-1	施策名	自然・生活環境の保全	施策主管 課長名	猪俣 利幸
関係課	町民税務課					

1. 施策の目的

対象	A 町域	意 図	A 人と自然の共生環境がさらに良好になっている
	B 地域		B 環境にやさしいライフスタイルの輪が広がっている
	C 町民		C 資源を大切に、ごみを削減する意識が高まっている

2. 成果指標

指標名	単位	現状値	上段：目標値 下段：実績値				
			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① A 2・3年前と比べて自然環境が良くなっていると感じている町民の割合（増加）（現状値：H28-30平均）	%	59.3	60.5 ----- 59.1	60.7 ----- 57.6	60.8 ----- 62.1	60.9	61.1
② B 環境に気がついた生活をしている町民の割合（増加）（現状値：H28-30平均）	%	80.3	80.7 ----- 79.6	81 ----- 81.6	81.3 ----- 77.9	81.6	81.9
③ C 町から排出される町民一人あたりの生活系一般廃棄物の量（資源ごみを除く）（減少）（現状値：H30時点）	kg/人	267	239 ----- 238	234 ----- 238	230 ----- 228	225	222
④							

3. 指標の分析（成果が向上した、またはしなかった理由）

①	前年度より4.5ポイント増加し、目標値を1.3ポイント上回った。自然環境の概念は森林、農地、河川、土壌、大気など範囲が広く、アンケート内容から具体的な要因を分析することは難しい。新型コロナウイルス感染症の5類移行後、空き家の解体や屋内外の片付けが行われる方が増えているなど身近な生活環境が改善していることも、環境が良くなったと感じている人が増加した一因と考えられる。
②	前年度より3.7ポイント減少し、目標値を3.4ポイント下回った。昨今、地球温暖化やごみ等の環境問題に関する報道を耳にする機会が増えており、環境への関心の高まりと電気料金等の高騰も相まって、節電や節水など習慣化された取組が当たり前となり、特に環境に気がついた生活と感じていない方が増えていることも一因と考えられる。
③	前年度より10kg減少し、目標値を達成した。ごみ減量に係る周知・啓発により、4R運動が浸透してきており、資源物の分別やリユース等の意識が高まっているものと考えられる。
④	

4. 課題に対する取組（今年度重点的に取り組んだ課題）

<p>廃棄物減量に向けて、出前講座や広報紙等でごみの排出削減や適正分別排出についての啓発活動を実施した。 省エネ性能に優れた家電への買換えを支援することで、一般家庭におけるエネルギー費用負担の軽減及び脱炭素化の推進を図った。</p>
--

5. 次年度の方向性（施策の方向性と次年度以降重点的に取り組む課題）

<p>3きり運動の推進、生ごみ処理機等購入費補助の実施、古紙類の分別の周知徹底等により燃やせるごみのさらなる減量化を図る。 令和6年度は、地球温暖化対策を計画的に進めていくため「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の策定に取り組み、2050年のゼロカーボンに向けた対策を推進していく。</p>

6. 施策を構成する事務事業（方向性と次年度以降重点的に取り組む主要な事業）

番号	事業通番	事務事業名	令和5年度決算額 (千円)	最終評価結果			主要事業
				成果の方向性	コストの方向性	今後の方向性	
1	5037	廃棄物減量対策事業	4,602	拡充	現状維持	②生産性改善	○
2	5430	廃棄物処理事業	273,302	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
3	16742	生活環境保全事業	12,240	拡充	拡大	①有効性改善	○
4	16790	狂犬病及び犬猫等処理事業	485	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
5	17708	電源立地地域対策交付金事業	8	評価対象外	評価対象外	評価対象外	